

「やわらかな琥珀」

—初稿—

2025/10/6

雨森 れに

〈人物表〉

永井 美玖 ながい みく

(28) 源氏名はビビ。シングルマザー

永井 瞬斗 しゅんと

(11) 美玖の息子

田崎 勉 たさき つとむ

(53) 美玖の客

客

(50代) 美玖の客

1. 道（夕）

住宅地にある細い路地。
古いランドセルを背負った永井瞬斗（11）が歩いている。

2. アパート・外観（夕）

築五十年ほどの二階建てアパート。

3. アパート・永井家・台所（夕）

狭い台所。作業台の上には大きいタッパーがあり、中には豆腐の天寄せが入っている。
派手なヘアメイクをした永井美玖（28）が、それを切り分ける。

瞬斗の声「ただいま」

ドタバタと足音。

瞬斗が台所を覗く。

瞬斗「もう行くの」

美玖「うん。あ、これ、おやつ」

美玖、小皿に乗せた天寄せを見せる。

琥珀色の羊羹のようで、雲のように散りばめられた豆腐が閉じ込められている。

瞬斗「またそれ？」

美玖、天寄せを一切れ取って口に運ぶ。

美玖「おいしいじゃん。半分店に持っていくけど、いい？」

瞬斗「もっと持って行っていいよ」

瞬斗、天寄せを掴み、二口で完食。

瞬斗「ほら、食べたよ。いってらっしゃい」

美玖「早く行けって？」

瞬斗「今日もドーハンってやつなんでしょ」

美玖「ごめんね」

美玖、瞬斗の頭を撫でる。

瞬斗「触んなくて！」

瞬斗、美玖の手をどかし、台所を出ていく。

美玖、自分の手を見つめ、悲しげ。

4. 道（夕）

美玖、ママチャリでスナックへ向かう。
カゴにはトートバッグが入っている。

5. スナック・外観（夕）

飲食店やスナックが並ぶ通り。その一角にある『ブラティ』の前、美玖のママチャリが止まる。

田崎勉（53）が店の前で立ち止まる。

勉 「ビビちゃん？」

美玖 「あ、勉強さん！ ちょっと待ってて〜」

美玖、慌てて店の中へ。

トートバッグを置いて出てくる。

美玖 「今日のお通し、しまつてきた！」

美玖は笑顔で、勉の腕に抱き着く。

勉、美玖の胸が当たって嬉しそうにする。

勉 「今日は美玖ちゃんが当番なんだ？ 何作ったの？」

美玖 「天寄せ。なつくかない？」

勉 「子供の頃よくたべたなあ。でも、それおつまみになる？」

美玖 「わっかんない！」

ふたりは夜の街へ消えていく。

6. 焼肉屋・店内（夜）

落ち着いた雰囲気焼き肉屋。

隅のボックス席に、美玖と勉が並んで座っている。

勉、美玖の尻の下に手を差し入れる。

美玖、笑顔で手を叩く。

勉は動じず、美玖の表情が陰る。

店員が肉を持ってくる。

勉の手が離れる。

美玖、席を立つ。

× × ×

トイレ。

美玖は便座に腰掛け、うつむいている。

ぎゅっと目を閉じ、諦めたように立ち上がる。

× × ×

美玖、嬉しそうに肉を食べる。

勉は美玖の太ももを撫でている。

7. 焼き肉屋・外観（夜）

美玖、勉と腕を組み、焼き肉屋をあとにする。

8. スナック・店内（夜）

昭和を感じる内装。客入りはほどほどで、従業員たちはどこかだらつとした雰囲気。

美玖と勉が乾杯する。

黒服が美玖に話しかける。

美玖、勉の卓から離れる。

勉、不機嫌そうな表情。

美玖、歩きながら、

美玖 「あれ、ヤバいかも」

黒服 「さーせん。別の子つくとくんで」

美玖、勉の卓を見る。

女の子が接客しているが、勉は不満そうである。

美玖は不安げに腕をさする。

× × ×

勉がギリギリ見えない位置の卓。

成金風の中年男性が座っており、お通しの天寄せを

食べている。

客 「ビビちゃん、おひさ〜」

美玖、客の隣に座る。

美玖 「もー、顔忘れちゃうかと思ったあ。ね、今日のお通し私が作ったんだけど！ どう？」

客 「久々だとおいしいね」

美玖 「あ、私も久々だとおいしいってことなのかなー？」

美玖が客をつつく。

客、嬉しそうに美玖を抱き寄せる。

抱き寄せた手を徐々に移動させ、胸へ。

美玖 「こちら——（手を払おうとして）」

勉 「そいつにも触らせるのかよ！」

店内の会話が止まる。

勉が立ち上がって美玖を睨んでいる。

黒服が押さえようとするが、勉は振りほどく。

客は美玖から手を離し、距離を取る。

美玖、動けない。

勉が美玖に近づき、テーブルを蹴り上げる。

グラスやアイスパールが落ちる。

黒服 「落ち着いてください！」

勉 「ビビを俺んとこ戻せよ！」

黒服 「はい、はい！ もちろんです！」

美玖、黒服に対し、信じられないという表情。

しかし、黒服はその視線を無視。

勉を宥めながら、卓へ戻す。

客 「俺、こういうのマジ勘弁だから……客のあしらいかた、

なっていないじゃないの」

美玖、悔しそうにうつむく。

床にはぐちゃぐちゃになった天寄せが落ちている。

× × ×

勉の卓に並ぶ大量のボトル。

美玖は泥酔状態である。

勉は美玖の体をまさぐっている。

美玖が微かに抵抗するが、勉はやめない。

店内には面白そうに見物する者、見て見ぬふりをす

る者、ひそひそと話す者というが、誰も止めない。

勉、美玖の服をまくりあげ胸を露わにしようとする。

急に体勢を変えられた美玖が、吐き気をもよおす。

9.

アパート・外階段（夜）

美玖が寝そべるように座り、階段が揺れる。

服は吐しゃ物で汚れている。

ドアの開く音。

瞬斗、美玖の頭の上に位置する段差で立ち止まる。

美玖、薄目をあける。

瞬斗は仏頂面をしている。

美玖 「よふかし、しちゃダメじゃん」

瞬斗 「今起きたんだってば」

美玖 「ごはん、たべた？」

瞬斗 「おいしかった」

美玖 「しゅくだいは？」

瞬斗 「した。ん（美玖に手を差し伸べる）」

美玖、ゆっくりと体勢を変え、瞬斗の手を取る。

瞬斗、美玖の重さによろめくも、ふんばる。

美玖 「おつきくなったなあ」

瞬斗はそれに答えず、美玖を引っ張る。

瞬斗 「すぐそこだから頑張って」

階段をあがっていく瞬斗と美玖。

10. アパート・永井家・玄関（夜）

美玖、玄関に入るなり崩れ落ちる。

すぐに寝息が聞こえ始める。

瞬斗が毛布を持ってきて、かける。

しばらく美玖の寝顔を眺め、室内へ消える。

× × ×

朝になり、美玖が目覚めます。

11. アパート・永井家・台所（朝）

美玖が台所を覗く。

瞬斗がタッパーから直接天寄せを食べている。

瞬斗、美玖と目が合い、気まずそうにする。

瞬斗 「おなか、すいちゃって……」

美玖、微笑み、

美玖 「うん」

おわり